令和６年度　第３号

全肢Ｐ連全国大会で発表してきました！

２０２４年８月１９日 石川県において、令和６年度第６７回全国肢体不自由特別支援学校ＰＴＡ連合会総会およびＰＴＡ・校長会合同研究大会「石川大会」が開かれ、「発表校」として金沢支援学校PTA 会長と連携支援 GL の安藤先生と参加し、「地域とともに」の思いやＰＴＡの取り組みなどを伝えてきました。次のページに発表資料も掲載しましたのでご覧ください。

発表後、助言者として出席された「こども家庭庁支援局障害児支援障害児支援専門官」の縄田裕弘氏より、「放デイなどの福祉施設と学校との横との情報の共有は難しいのが現状。そのため、福祉施設や学校とお子さんの情報共有などをする上で、保護者の皆さんにその橋渡しをしていただきたい」と助言をいただきました。また、現場のリアルな声を届けるためにパブリックコメントを利用することも勧めていただきました。

開会式の様子

校長先生もいらしてくださいました

こんなに大勢の前で発表します

●結城会長より

たくさんの皆様のご協力のおかげで無事に発表校という責任を果たせました。A 部門のご家庭、担任の先生方には資料作成のためのアンケートにご協力いただき感謝申し上げます。

大会で得た情報や経験を今後の PTA 活動に活かしてまいります！

【第3分科会「福祉」発表資料】　　2024.8.19

「子どもたちの現在、将来の自立生活を支え確保するために、PTAは、福祉機関等との連携をどのように深めていくか」

～障がいのある子どもの自立、生き生きと生きていくために～

神奈川県立金沢支援学校
ＰＴＡ会長　結城千恵子
教　　員　　安藤裕子

1　学校の概要

●所在地

本　校：　神奈川県横浜市金沢区富岡東２－６－１

分教室：　神奈川県横浜市磯子区氷取沢町９３８－２（県立横浜氷取沢高校内）

神奈川県立金沢支援学校は、平成19年に開校し、今年で17年目になります。肢体不自由教育部門と知的障害教育部門の2つの部門がある特別支援学校です。

本校では、肢体不自由教育部門を「A部門」、知的障害教育部門を「B部門」と呼んでいます。

それぞれ小学部、中学部、高等部の３つの学部があり、高等部Ｂ部門には、本校のほかに神奈川県立横浜氷取沢高校の中に横浜氷取沢分教室があります。

本校に通う児童生徒の居住地域は、金沢区をはじめとする４区、隣接する横須賀市、その他の地域になっています。

生徒数	小学部	中学部	高学部	分教室	合計
肢体不自由教育部門（A部門）	27	16	15	-	58
知的障害教育部門（B部門）	79	57	87	45	268
合計	106	73	102	45	326

令和 6年 6月 1日現在

2　本校の特色

本校は神奈川県横浜市内でも多くの自然が感じられる南部地域に位置しています。

海から近く、学校の近隣には緑豊かな富岡総合公園があります。

周辺には海の公園をはじめ、南部市場、八景島シーパラダイス（水族館）、三井アウトレットパークなど、立地を活かした観光施設が複数あり、子ども達は校外学習や遠足、買い物学習などで親しんでいます。

校章

本校　本校の校章も、そんな豊かな自然を、空、緑、海をイメージさせる色彩で表現し、子ども達が自然に囲まれてのびのびと過ごせることを願ってデザイン化したものになっています。（作者　鶴田亜里沙さん）

医療的ケアのある児童生徒は２３名で、看護師が５名常駐しています。

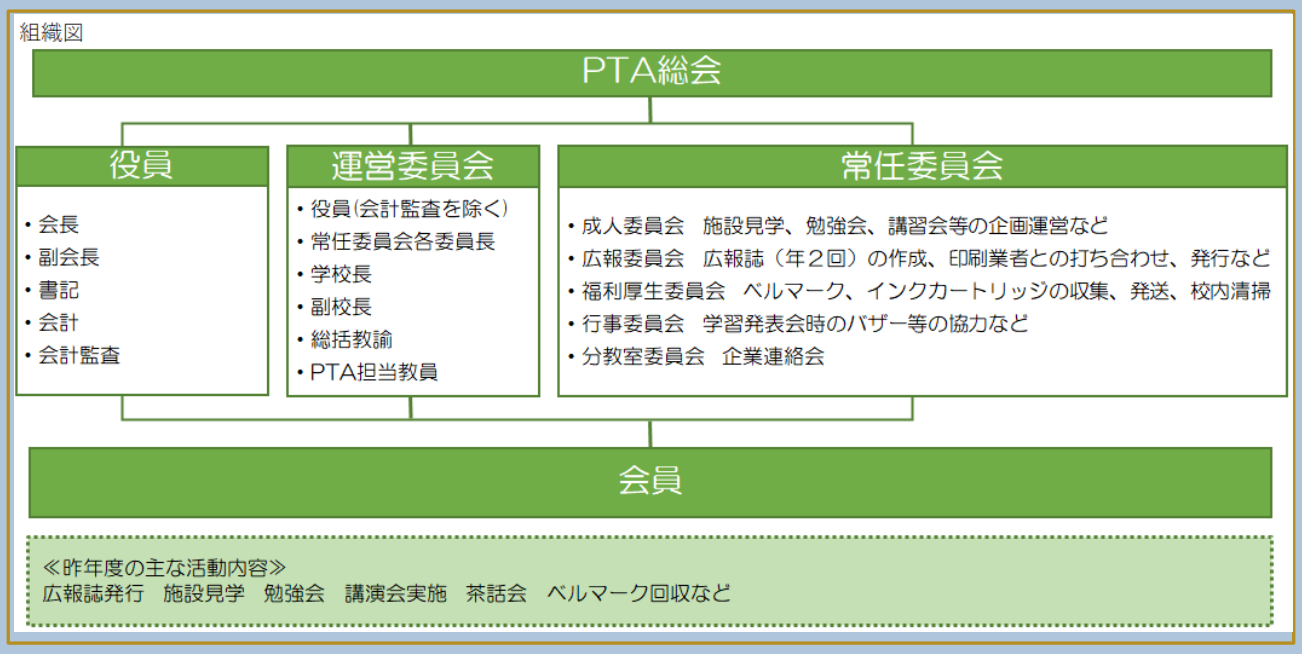
ＰＴ・ＳＴなどの専門スタッフも配置され、学習や生活に関する指導・助言を受け授業内容や支援方法の改善に役立てています。

「豊かに生きる力を育む学校」を学校の基本理念とし、「子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを受けとめ、地域との協働を通して自立と社会参加の基礎となる生きる力を育む」ことを学校教育目標としています。

金沢支援学校のモットーは「笑顔とやさしい心　金沢」です。

本校ＰＴＡは、会員同士が親睦を深め、研鑽を積むとともに、保護者と教職員が協力して家庭と学校、また地域社会における児童生徒の幸福な成長と福祉の増進をはかることを目的としています。

各委員会の活動は下記の通りです。



講演会

コロナ中はＰＴＡ活動がほとんど中止となり、加えて授業参観や保護者懇談会等も実施しないようにするなどの感染対策がなされ、保護者が学校に来る機会がほとんどない数年を過ごしました。その間に保護者にとってはＰＴＡとはどんな活動をするのか分かりづらくなってしまいました。また学校、教職員とじっくり話せる機会も減り、お互いの距離も広がってしまったと言えると思います。

勉強会

令和５年度はコロナが５類になったことから、全てではありませんでしたが、ＰＴＡ活動を再開しました。茶話会、勉強会、講習会、施

設見学会など、対面での活動を開催すると、見込んでいたよりもはるかに多くの保護者の参加がありました。

参加した保護者に毎回アンケートを実施したところ、「保護者同士で情報交換ができてとても良かった」「悩みを語り合ったり、楽しくおしゃべりしたりしてとても明るい気持ちになった」「学校に来ることで生徒や先生たちの頑張りを目にすることで、安心感や信頼感が高まった」など、好意的な声がほとんどでした。

改めて、保護者たちはこういう交流の場、分かち合う機会を心待ちにしていたんだな、と実感した一年になりました。

茶話会　ヨガ

見学会

３　取組の内容

まず今回、我が校に割り当てられた「福祉」のテーマ、その副題の「子どもたちの現在、将来の自立生活を支え確保するために、ＰＴＡは、福祉機関等との連携をどのように深めていくか」は、とても簡単には語れず、それぞれの立場で色々な見方、考え方があるだろうと思われ、とても難しく思えました。

本部役員で話し合うと、「そもそも障がいのある子の自立ってなんだろう？何がどうなると自立生活と言えるの？」という意見が出ました。

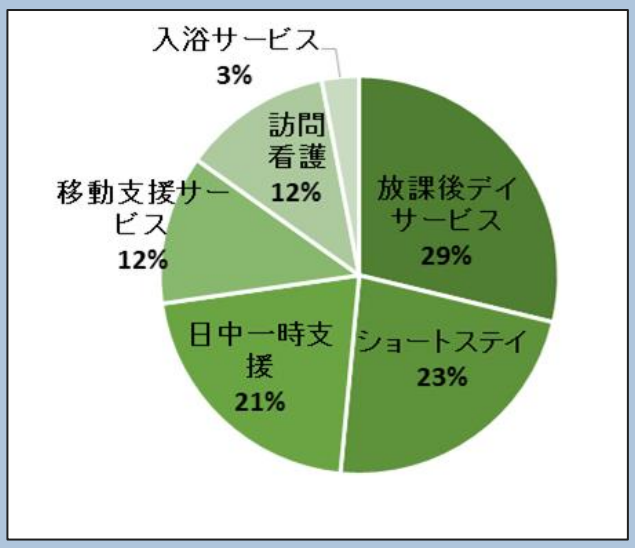
また、保護者の皆さんがどのように福祉サービスを知り、どう利用につながったのか、福祉サービスの利用で困っていることなどが共有できれば、今後に役立てることができるのではないか、と考え肢体不自由教育部門の各家庭と担任の先生方にアンケートを実施しました。（３９回答）

アンケート結果は以下の通りです。※複数回答あり

① お子さまに医療的ケアはありますか？

医療ケアあり	56%
医療ケアなし	44%

② どんな福祉サービスを利用していますか？



障がいのある子どもの自立とは何だと思いますか？

親の回答

・少しでもできる事を増やす

・家族以外の人と楽しく生活する

・親元を離れて違う環境でも生活をすることができる

・サポートを受けながらも意思決定が生かされる

教員の回答

・自分の気持ちを何らかの表現で伝えられる

・家族以外のサポートを受け入れ生活できる

・子供が安心して頼れる場所や人を増やすこと

・できることは最善を尽くし、できないことはお願いできる力

まとめ

様々なサービス、支援を受けながら自分の意思を表現し自分らしく生活すること

① ③のために行っていることは何ですか？

親の回答

・子どもの意見や意志を尊重する

・なるべく社会とのつながりを持つ

・福祉サービスだけでなく積極的に外に出ていくようにしている

・人とコミュニケーションを取る

・家族以外の世話に慣れるように放課後デイサービスや短期入所等を積極的に利用する

・低学年のうちから親から少しずつ離れられるように練習したくて、レスパイト利用につなげるため何度も各担当部署と協議したが、結局受け入れ先が見つからず、利用できずにいる

・親以外のたくさんの人と関わるようにする、親と離れる時間を作る

・卒業後の施設の情報を常に集めている

・できる事を増やす。本人の好きなこと、楽しめることを探す

・本人の現状、特性、支援方法などを他の方にも分かりやすく伝えられるように準備している

・健康で生活のリズムを整えること

・人を信頼し支援を受け入れられるようにすること、子どもも親も

教員の回答

・対応する教員を固定化しない

・本人からの発信する力、人と関わる力を伸ばす

・いつでも、どこでも、誰とでも、を意識してできるようにする

・様々な機会で本人に選択してもらう

・色々な人と関わって社会性を身につけられるよう意識している

・個々に合った支援方法を行う。

・自己主張をしやすい環境を作り、表出しやすい接し方を心がけている

まとめ

自己主張、意思決定しやすい環境づくり、支援方法などを工夫し、親や固定の人でなくても誰からのサポートでも受け入れられるようになることを意識して、普段からサービス利用や外との関わりを心がけている。

② 現在の福祉サービスに対する要望、改善点。

今後，どんな支援の輪が広がると本人やご家族が将来に前向きに取り組めて、家族だけで抱え込むことのない社会になると思いますか？

親、教員ともに

・移動支援の拡充

（事業所が少なく希望者数に対し圧倒的に足りていない、利用したいタイミングで使えない、何年待っても利用できる順番が回ってこない、介護タクシーも少なすぎていつも使えないことが多い）

・重心、医療的ケアのある子でも日常的に利用できる場や施設

・卒業後の受け皿の拡充

（事業所、グループホームなど。医療的ケア児が利用できる地域活動ホームが各区１か所設置されているが、数年で定員数に達し、現在ほとんど空きがない。それ以外の事業所は医ケア児の受け入れをしていないところも多く行き場所がない）

・１７時頃まで利用できる事業所が増えるといい

（親の就労問題、現在ほとんどの事業所は１６時までなので）

・本人や家族だけでなく、支援者も前向きになれるような制度があるといい

（事業所も足りていないが、支援スタッフも常に不足傾向。やってみたい、と思える環境、制度づくりが必要では？）

・細やかな情報提供

・相談支援事業所の拡充と相談支援員の増員と資質向上

（相談支援を希望してもすでに空きがなく、相談支援がみつからない。相談員の中には障がい特性や制度の知識が足りずこちらの望むような対応に繋がらないこともある。）

・地域と交流できるような楽しめる場、サービス、イベントなど

４　成果と課題

まず集まったアンケート用紙を読んで、保護者と先生方が日々忙しい中で、今回色々考えて真剣に回答してくれたことに深く感謝しました。

回答をみると家庭も学校も本当に頑張り、将来に向けて取り組んでいます。

「④自立のために行っていることは何ですか？」の問いへの回答には、日々の努力や積み重ねていることが記されていました。

本校では小学部低学年から進路説明会を行っています。将来や卒業後を見据えた時に今何をすることが大切なのか、今のうちからできることは何か、卒業までに何を身に付けたらいいのか、など、社会へ出ていく時の心構えは比較的できている保護者が多いと思いますし、今回のアンケートからもそのことが読み取れました。

横浜市という土地柄、障がいのある子どもの数が多く、学校の児童生徒数が増加する一方で、本校も教室などが足りなくなってきている状況です。

福祉サービス事業所等も新しく開所するところもありますが、利用希望者数にはなかなか追いついていないのが現状だと思います。

親と離れる時間を作ること、家族以外のサポートを受けることなどに小さい頃から慣れさせておくことが大切だと、レスパイトや放課後デイサービス、移動支援サービスを希望する家庭は多いですが、空きがなかったり条件が合わなかったり実際利用までこぎつけず、結局サービス利用ができるまで待つ間は家族だけ、親だけで抱えるかたちになってしまっている現状が多くあります。そのため仕事と育児の両立が難しい家庭も多いです。

本校ＰＴＡでも県への要望書提出や、国への制度改善の署名活動など毎年行っていますが、なかなかすぐには変わらない難しいところです。それでも声をあげ続けていくことが大切だと思いますので今後も続けていきたい活動です。

では、将来の自立のための一つとして今からサービスを利用したいと考えている家庭が多いが利用できない、全くできていないわけではないが、十分に行きわたらない、という現状のなかで、ＰＴＡとして何ができるでしょうか？

子どもたちの笑顔や生き生きとした毎日は、親の笑顔から生まれるものです。またその子どもの笑顔から親も先生も癒しや元気をもらい、生き生きとしたやりがいのある毎日の生活や仕事につながります。親や先生といった周りの大人たちが生き生きと輝いているのを見て、子どもたちは自分の将来に希望を持ち、元気に明るく過ごすことができる・・・

この「優しい笑顔の循環」が広がり、続くようにするにはどうしたらいいでしょう？

どうすれば子どもたちは地域の一員として地域に溶け込み、地域に見守られ、地域に貢献でき、生き生きと生きていけるのでしょうか？

以前息子が小学部のころに参加した保護者向け進路説明会がとても記憶に残っています。障がい者雇用をしている企業の方が説明にいらしていました。その方が話の中で「私はこれまでの人生で、障がい者や福祉のことには全く興味も関心もなかった。でも進路の先生と生徒さんたちの信頼関係がとても素晴らしく感動しました。自分もそんな関係に憧れ、たくさんの障がい者の方と良い関係を築きたいと思い、今は障がい者雇用の担当者をやっています。」とおっしゃっていました。

話の中の進路の先生はちょっと強面の男性の先生でしたが、生徒からはもちろん、保護者からもまた企業や事業所からもとても信頼されていました。卒業後に本当にその子に合ったところへ送り出せるようにと、小学部のころから生徒や親をよく見守り、直すべき点は伝え、身に付けたほうがいいことはアドバイスしてくれるような先生でした。

就労先で何か問題があると親よりも先にその進路の先生に連絡がいくほどでした。子どもの成長を涙を流して一緒に喜んでくれて、子どもも初給料をもらうとまず先生に報告するといった感じでした。

今、福祉サービスや事業所不足などでなかなかいきわたらない現実はあるかもしれませんが、それらが潤沢に揃うのを待つだけではなく、要望するばかりでなく、自分たちの生き生きと輝く姿、親と子ども、先生と子どもの優しく信頼でつながった姿、たくましく生きている毎日の姿を、地域、社会にみてもらうことで「優しい笑顔の循環」に巻き込んでいけたら、とても素晴らしいのではないかな、と強く思います。

先述した進路の先生と生徒、企業の担当者の方のように、やらなくちゃ、ではなく、やりたいな、関わりたいな、と周りが思えるような自分たちでいられたら素敵です。

そのためにＰＴＡとして、今、できることは何でしょうか。

一緒に頑張ろう、一人じゃないよ！が伝わる保護者同士の**つながり**

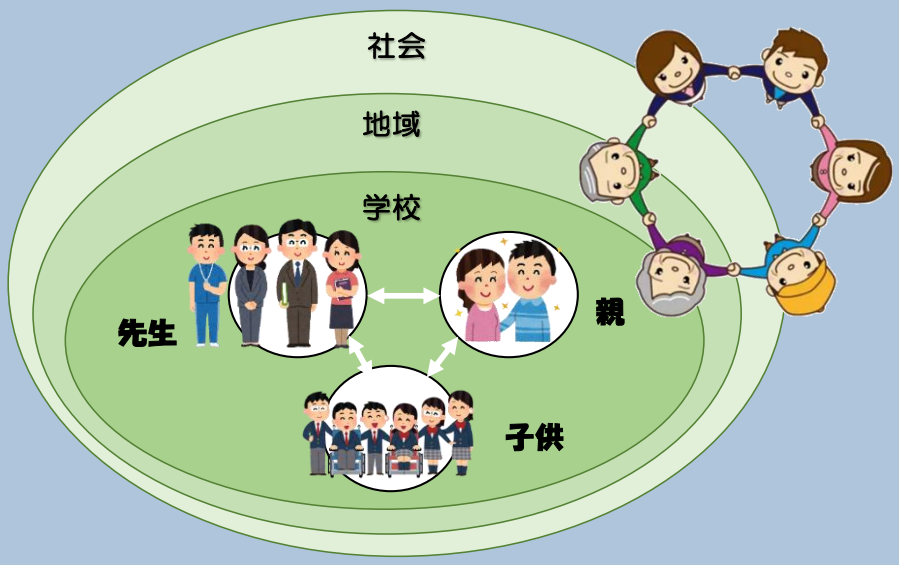
心から応 援しているよ！が伝わる子どもたちと学校と保護者の**つながり**

お互い信頼し、子どもを見守り育てるチームとなって日々取り組んでいけるような**つながり**

これらの「つながり」を作ることができるよう意識し、令和５年度は活動してきました。

令和６年度も「こうあるべき」「これをやらなくちゃ」と決めつけず、常に子どもたちをよく見て、学校側と相談し、福祉、地域の情報を収集し、社会状況なども踏まえながら、今、必要なこと・できることは何か、の視点で活動をしていきたいです。

さらにこれらの土台の上で、地域に出て行き、より多くの人に学校と子どもたちに直接触れ合う機会を作りたい。その中で、いいな、やりたいなと思ってくれた地域の人々が、直接間接問わず小さくても大きくても、何らかの支援の手を差し伸べてくれる機会が出てくるのではないでしょうか。



まず自分たちが「優しい笑顔の循環」の源になって、学校、地域、そして社会全体が優しい循環の輪になることを祈っています。

この先、福祉が充実した時に、障がい者の家庭だけが笑顔になればいいのではなく、そこで働く支援者も、学校も、地域の人たちも、生き生きと自分らしく輝いて日々過ごせるような、そんな社会になることを願い、発表を終わらせていただきます。